

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491200107		
法人名	株式会社 インテック三重		
事業所名	グループホーム 大山田いこいの里		
所在地	〒518-1421 三重県伊賀市真泥字瀧ノ谷2695番地の4		
自己評価作成日	平成 28 年 12 月 2日	評価結果市町提出日	平成 29 年 3 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2491200107-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	BERシステムズ株式会社		
所在地	三重県 四日市市 八王子町 439-1		
訪問調査日	平成 28 年 12 月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは見取りが出来るグループホームを目指し、入居された利用者様・ご家族様がお望みであれば、ラストステージを迎えることの出来る様努めています。利用者を選ばない選べる施設になるよう日々努力しています。入居された利用者様がいつまでもお元気で過ごせるよう職員全員で暖かく見守り家庭的な雰囲気毎日過ごせるよう努めています。自然豊かな施設、季節感を感じられる施設、毎日楽しく過ごせる施設、社長の「今までにないグループホーム」を目指し頑張っている施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見晴らしのいい開放感のある大きな掃き出し窓から、広大なテラスが広がり、きれいな湖が見渡せ、四季の移ろいを身近に感じることが出来る。「それがここに決めた一番の理由」という利用者は、毎日ここで日向ぼっこをしている。温泉を利用した広い足湯スペースもあり、利用者の日常の交流の場になっている。本年赴任したばかりの施設長は、自らの介護施設での介護や運営管理経験を活かし、いこいの里の理念の具現化に向けて意欲的に改革に取り組み、独自に「運営マニュアル」も策定し現場での対応をより具体的にわかりやすく記述し実践を重視している。ケアメイトの導入、職員全員への個人面談等、働き方改革や職員の育成に加え、地域交流にも意欲的に取り組み始めている。また、看護師の職員が多いのもこの強みである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いこいの里の家訓を理念とし、各職員はその家訓に近づけるよう日々努力を行っています。利用者から選ばれる施設を目標に頑張っている	職員は、「お世話」という考えではなく、「一緒に生活している」という考えの下、利用者の在宅生活の延長のような生活を継続してゆくことを目指して支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設設置場所は、村落と離れた所にあるためなかなか交流は難しいが、何かイベントがある時は積極的に参加出来る様努力している。特に季節の花の提供を地区から提供して頂いている	自治会には加入しているが、周辺に人家がなく日常的な交流は難しく回覧板も回ってこない。最近自治会長との連絡を密にとり、地域の夏祭りに参加したり近隣の農家で取れた伊賀米を使用したりと、地域との積極的な交流を模索している。	いこいの里の紹介と共に、高齢者の健康情報や問題行動への対応等のお役立ち情報等を載せた広報を自治会から配布してもらったり、足湯を地域に開放したりして、地域に溶け込む活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々にグループホームとはどのような施設であるのか理解していただくのが大事である。そのため、積極的に集会等に参加し理解を求めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、区長、市職員、利用者代表等が参加し、状況報告や行事相談を行っている。各代表からの意見は貴重な意見が多く出来るだけ実行に向けて努力している	運営推進会議出席者は、外部からは区長と市担当課職員のみと少ない。今後は民生委員や地区の代表にも参加を依頼することや、家族代表を含め皆が出席しやすい日の設定を考えている。会議で出た懸案は速やかに実行している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者との連絡を行いながら、協力体制を構築している	困りごとがあれば、些細なことでも市担当者に相談し連携を深めている。何事も相談できる体制が出来上がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止マニュアルを作成し、職員会議の中で研修を行い正しい理解に努め、拘束を行わないよう実行している	身体拘束・虐待防止マニュアルの研修を行うことで、全職員が身体拘束の弊害を理解し、言葉かけや精神的な拘束をしないケアを心がけ取り組んでいる。以前「緊急やむを得ない事態」で車いすベルトの使用があったが、マニュアルに基づき早期解消に努めた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については常に職員と論議を行っている。自分は虐待を行っていないつもりでも、第三者から虐待と認められることがあるので日ごろの教育が大事であり、教育を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業の利用は積極的に行っており、活用もできるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書などを利用し説明を行い理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族様が来所際に接触を密にして、ご意見やご希望を聞きできる限り運営に反映させている。実行できるものはすぐにでも行っている。ご意見箱を設置しているが、意見がなく安心はしているが、あればすぐ対応出来る様にしている	意見がないから安心だと慢心しないで、常に利用者家族とのコミュニケーションを密にし気を配りながら進める必要があることを認識している。また、家族からの意見を聞くのに、運営推進会議もツールの一つと考え、時間の工夫を考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個別的に面談を行い意見等を徴収して、代表者に伝えている。管理者からも職員の意見等を吸い上げるよう指導を行っている	施設長は、職員がなんでも相談できる雰囲気作りを心掛け、全職員と面談し職員の気持ちや意見を丁寧に聞き取り、改善に取り組んでいる。給与査定方法や待遇改善等、職員のモチベーションを上げる取り組みに力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の給与水準、労働条件等は、面接等を行い施設長サイドで確認し、代表者に進言している。各自の研修などの向上心は大事にし、積極的に研修に行かせているが、人員不足のため現実には出来ていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術的なことなどは、確認を行っているが、まだまだであるが、各職員がベテラン職員から研修やアドバイス取り入れ積極的にトレーニングを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は良い勉強になり施設への影響も大きいと考えられるが、現実には一人で任せられる職員が少なく、研修や勉強会には参加できていません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェースシート・アセスメントシートを作成し、本人・ご家族の意向を反映している。また、入居ご依頼の意図を聞き、施設サービス計画書に明記し、職員に徹底させている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安を聞きそれに対応することは大切であり、これまでされてきた介護に尊敬と敬意を忘れないことを徹底している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思いを聞きサービス計画書に明記している。ご本人がご本人らしく生活できるよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が本人たちを介護しているのではなく、間違っても本人に沿うケアを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族さまには、定期的に連絡を行いご本人の状態を報告したり、面会時には必ず状況を報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	話しやすい雰囲気づくりにを行っている。手紙や電話で馴染みの人との関係が途切れないように支援している	出来るだけ継続して人間関係が途切れないよう、家族にも理解を求め、利用者が知人等に電話や手紙で連絡を取れるよう支援・協力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者本位に任せている。利用者同士の人間関係の中、交わりをもたせるよう支援はしているが、その後はそれぞれの人間関係の中、見守りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最初は連絡や相談に応じているが、最終的には疎遠がちとなっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションは欠かさず、今何が問題なのかを全職員で検討している	介護職員がそれぞれの目で見えた毎日の気づきを記録し、月1回の定例会議で全職員で話し合い、利用者の希望や意向の把握と共有に努めている。また、年に一回でも利用者一人ひとりの大きな希望を実現させたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中でご本人の生活スタイルを把握している。生命に危機がない限り、ご本人に沿っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることはして頂くことはもちろん、今までしてなかったことも指導し行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員、看護職員と計画作成者が気づきや意見を出し合い、モニタリングをする一方で利用者・家族の希望や意向、主治医の意見も反映し、介護計画を作成している	モニタリング会議では、看護師、介護職員及び計画作成者が、毎日の介護日誌(看護日誌と看護記録を合わせたもの)等の観察記録を基に話し合い、家族の意向や主治医の意見も反映しながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の徹底・申し送り・業務日誌の閲覧などで、今起きているお一人お一人の問題点を共通認識するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な発想が出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の力を借り、地域の活動への参加を心掛けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は適宜に行っている。医療連携を十分に利用し、利用者の安全と安心を得ている。協力医の往診は月2回、その間看護師が医師の指示による対応を行っている	協力医の定期的な往診がある。利用者のかかりつけ医や専門医の受診は、基本家族対応となっているが、出来る限り負担をかけないよう心掛けている。家族からのホームへの情報伝達が不十分だと認識している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことも24時間電話にて看護師との連携が取れるようになっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病棟看護師とのコミュニケーションを密にし、現在の状況を把握している。病院の地域連携室とは日ごろから連携を密にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り関する方針」を明確にし、ターミナル計画書を作成、職員・家族がそれを共有し、主治医との連携を密にとりながら支援している。当初は、管理者が看護師であったため、チーム体制は比較的とりやすく作成が可能であったが、現在は医療的な問題があるので対応は難しくなっている。	ターミナル期に入った際に、看取り契約書を交わすことになっている。利用者と本人の意思の確認を重視し、初期、中期、末期の各ステージで、意思の確認を行うフォーマットになっており、どの様な方針で看取るかを本人・家族と共に考えてゆく姿勢である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師不在における介護職員による利用者の観察項目を設けている。職員には対応出来る様に日ごろから教育を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には最寄の避難場所に行くことを計画しているが、施設は高台に位置しているため孤立する可能性があるため十分地域の方と日頃の連携を密に行っている	職員のプライバシー上の要求から、災害時緊急連絡網を工夫している。「避難時誘導一覧表」を作成し、一人ひとりの部屋のドアに、支援必要度に応じて赤、黄、青のテープを張り、職員が誘導しやすいよう工夫している。	消防署と連携した避難訓練の在り方を考えており、早急な立案と実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おむつ交換や着替えは必ず居室で行い、トイレ誘導時はプライバシーを損ねないような言葉掛けに注意し対応をしている	声掛け改善に努めている。常に利用者一人ひとりの性格やプライドに配慮し、本人を主体とした声掛けを心掛けるよう意識している。馴れ馴れし過ぎる言葉や無意識に荒くなる言葉遣いにも、都度注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人を主体として決定していただき、それを間違っていたとしても見守っていくよう職員に教育している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご希望を聞き、それに沿った支援を行っている。常に相談しながら行うよう職員に話している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と相談しながら行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生きるために不可欠なことであり、同時に、人間にとって大きな楽しみの一つであるため、出来る限り利用者様の意見を業者に反映出来る様取り組んでいる。出来る限り塩分を控えめにし、生野菜は湯とうしをしている	利用者との共同調理が難しくなったため、食材宅配を利用し、職員(ケアメイト)が調理しており、調理の音や匂いが身近に感じられ、今日の献立が居間での話題の中心になっている。おやつ作りは利用者の楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリー制限のある方はお見えでないが、個々の体重やご本人のお気持ちを検討しながら量は決定している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの誘導を行っている。口腔ケアは大事なことで在宅歯科を行っており口腔ケアの指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向け指導誘導を行っている。低下された方に対しては原因を追究し、支援を決定している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の観察はつねにおこない、個々によっては詭便などのコントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	景色を眺めながら露天風呂の気分を味わえる。週2回の入浴を基本とし、夏の暑い時期には合間にシャワーをあびたりしている。入浴拒否の方には指示しないで個々の気持ちに添った支援をしている	開放的で眺めの良いお風呂は、利用者の楽しみの一つであり、職員は利用者とは話しながら状態観察にも気を付けている。戸外の広々とした足湯もコミュニケーションを楽しむ場として、週に一度利用されている。週に3回の入浴体制を考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのライフスタイルに合わせている。夜間譫妄の方に対しても特に重視せず眠れと時に寝ていただくケアを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の薬理作用やその持っている副作用を理解するより、どのような理由でその薬が処方されたか、薬を内服してから変化はどうか、などの点が重要となりため、日頃から服薬は誤薬や飲み忘れのないよう指導している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあわせた役割・楽しみを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望にそって、事業所の周囲を散歩したり、広いウッドデッキで日光浴をして四季折々の景色を五感で感じてもらっている	利用者の「外に出たい」感情を当たり前と受け止め、出来るだけ支援するように心がけている。寒いので積極的に外に出たがる利用者もいないことや急な人手の問題で、十分な外出支援ができていないと言えない。	散歩を外出と捉え構えるのではなく、温かい日にはホームの敷地内を何時でも自由に歩けるよう敷地内の畑や緑に触れ合う日光浴の機会を増やし、利用者の心身の健康維持のため、職員からの積極的な働きかけも望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自由であるが、現実にはもっている方はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信の自由は守られている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境づくりを行っている。職員が環境整備を行い清潔・不快除去を行っている	木のぬくもりを感じる建物で、天窓から心地よい光が部屋の中に射し込んでいる。ゆったりとして、温かい雰囲気のある共用空間からの湖の眺めは素晴らしく、この展望を目指して利用者が自然に食堂や居間のソファに集まり、くつろぎながらおしゃべりを楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたいときは、ご自分の部屋に戻れている。また、利用者様同士がご自分の部屋に招いている姿も見られている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族に任せている。その人がその人らしく生活できるように支援している	本人の馴染みの家具など「それまでの生活とつなぐ」努力と「これからの生活を創る」という発想で、一人ひとりの好みに応じた住みやすいレイアウトにし、思い思いに過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立に向けて生活できるように、全職員努力し、レクレーションなどを行い毎日を楽しく過ごせるよう努めている		